



駒本の力

駒本小学校(家)

教育活動紹介便り

NO. 26

平成 28 年 5 月 18

3 D 挨拶の指導の徹底を

校長 田中 克昌

「挨拶の駒本小、駒本小の挨拶」を目指して指導している、「居ずまいを正した挨拶の徹底」ですが、今月には、1年生が、あいさつがんばり隊としてがんばってくれています。

朝の校門での挨拶の達成状況は、98%です。ただし、質的にはさらに高めていきたいと思っています。そして、場所や相手が変わったときにどうでしょうか？ご家庭での挨拶の状況はいかがでしょうか？地域ではいかがでしょうか？さらに、日常での「お願いします」「ありがとうございました。」等の挨拶はどうでしょうか？「ごめんなさい」「すみません」だってとても大切な挨拶だと思います。「おはようございます」だけが挨拶ではありません。廊下で立ち止まって「こんにちは」と挨拶してくれる低学年の子どもたちが増えてきました。とても気持ちのよいものです。挨拶の質を高めていくために、「3D挨拶」を推奨しています。

「3D挨拶」とは、「いつでも」「どこでも」「だれにでも」です。この「3D挨拶」を合い言葉にして、学校でも家庭でも子どもたちに指導していきたいと考えています。「いつでも」「どこでも」「だれにでも」気軽に挨拶できる子どもたちが一人でも多くなることを目指していきましょう。特に、挨拶は家庭教育が占める割合がとても高いものです。

さて、行動形成は形づくりと意味づくりと言います。ですから、当然、形の指導が必要です。その形の指導の過程で意味をしっかりと伝えることが大切です。

指導手順としては次のようになります。

1. 大人が見本を見せる。
2. 形を取りだして指導する。
3. 練習をする。
4. 上手な挨拶を評価する。
5. 日常化に向けて、できていない時はやり直しをさせる。
6. 大人がしっかりと挨拶に応える。
7. やる気にさせる評価活動を行う。
8. 段階に応じて意味指導を行う。

ご家庭でもこの指導手順を試してみてください。校門での挨拶がほぼできるようになった現在、次の課題が「いつでも」「どこでも」「だれにでも」の「3D挨拶」の定着です。

正直、去年の今頃と比べると、はるかに挨拶の状態は良いと思います。校舎内での「こんにちは」の挨拶も増えてきています。学校だけではなく、家庭や地域でも挨拶の指導に取り組み、子どもたちを見守り育てることで、「共に育み、共に育つ」駒本になっていくと確信しています。よろしくお願いいたします。

駒本小学校支援地域本部の力 こまもとの縁結びから

先日、保護者の皆様に配布された「こまもとの縁結び」というお便りをご覧になりましたか？そこには、本校の学校支援地域本部の活動が紹介されていますので、ぜひお読みください。学校支援地域本部とは、字句通り、学校を支援するための地域本部です。その活動は幅広く、文京区の小学校では20校中16校で設置されていますが、その中でも、駒本小の支援地域本部の活動は、その量質共に確実にベスト3に入る活動が展開されています。学校支援地域本部は、地域全体で学校教育を推進するために設置されており、次の3つの目的をもって活動しています。

- ① 教員や地域の大人が子どもと向き合う時間を増やす
- ② 地域の方々の学習成果の活用機会の拡充
- ③ 地域の教育力の活性化

4名のコーディネーターを中心に学校支援のために様々な活動に取り組んでくれています。ご協力いただいている方々は、全てボランティアでありそのご支援の効果はとも高いものがあります。

お便りに掲載されている活動以外の活動について少しご紹介します。今年は、小1プログラミング対応のため、つまり、新しく入学した1年生がスムーズに学校生活に適應できるようにするため、1年生の2クラスに、4名の方が交代で教室に入ってください、子どもたちの支援に当たってくれています。また、これから行われる全校遠足においても、4名の方が引率のお手伝いをさせていただきます。

現在の学校教育は、教育活動を学校だけで実施することは困難です。そのためにPTA組織があり、さらに、学校支援地域本部があります。駒本小では、学校を核としつつも、保護者の皆さん地域の皆さんと力を合わせて子どもたちの育成に努力しています。

「共に育み、共に育つ」という考え方が大切です。共にとは、子どもたちの育成のために、学校の教職員も保護者も地域ということです。それらの人々が子どもたち育成のために努力し、それを通して、教職員として親として、地域の一員として成長していくという意味です。これからもPTAや学校支援地域本部から保護者や地域の皆様に、ご協力の依頼があると思いますが、ぜひとも**「共に育み、共に育つ」**の理念をご理解いただき、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

言葉は、心のかがみ

挨拶もそうですが言葉遣いの大切さを教える時によく遣うのがこの「言葉は、心のかがみ」という言葉です。言葉というのは、その人の心の状態を表すということです。心が穏やかで機嫌が良いときの言葉と、イライラしていてストレスがたまっているときの言葉では、まったく違ってきます。この言葉の奥の意味は、人は心のもちようによって、その質が変わる。だからこそ、自分の言葉をチェックすることが大切であり、丁寧な言葉を遣うことで、自分の心さえもコントロールできるということです。